

# 会 議 録

## 1 会議名

令和6年度第2回直江津区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### 【自主的な審議】

- ・前期からの引継ぎ事項について（公開）
- ・自主的審議の進め方について（公開）

### 【報告事項】

- ・地域自治推進プロジェクトの検討状況及び地域独自の予算事業の経過措置の取扱いについて（公開）

## 3 開催日時

令和6年7月16日（火）午後6時30分から午後8時20分

## 4 開催場所

上越市レインボーセンター 第三会議室

## 5 傍聴人の数

3人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 磯田一裕（会長）、田中美佳（副会長）、古澤悦雄（副会長）、青山藏吉、  
稲川真智子、鴨井辰典、小玉希実、関澤隆一、関谷照子、田中 実、  
田中由美子、土肥 優、沼波建太、古谷信人、保坂邦之、増田和昭  
（欠席者2名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：佐藤所長、近藤副所長、石崎係長、丸山主任

## 8 発言の内容

### 【近藤副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【磯田会長】

- ・挨拶

【近藤副所長】

前回欠席の古谷委員から、自己紹介をしていただきたい。

- ・古谷委員による自己紹介

【磯田会長】

- ・会議録の確認：小玉委員、関澤委員に依頼

議題【自主的な審議】前期からの引継ぎ事項について、事務局へ説明を求める。

【石崎係長】

- ・参考資料「第4期直江津区地域協議会 取組概要」に基づき説明

【磯田会長】

今ほどの説明に対し、補足、質問等はあるか。

(補足、質問なし)

議題【自主的な審議】自主的審議の進め方について、事務局へ説明を求める。

【石崎係長】

- ・資料No.1「自主的審議の進め方について」に基づき説明

第4期からの引継ぎ事項となっている自主的審議事項を含めて、今後の自主的審議の進め方についてご協議いただきたい。

【磯田会長】

今ほどの説明に対し、補足や質問等はあるか。

【増田委員】

提案書の様式があるが、提案理由、課題の背景や現状、今後の見通し、地域、住民への影響等、いろいろな項目がある。これを委員の皆さんが全部書いて出すとなると、ものすごくハードルが高くなる。それぞれの委員が協議する必要があると感じたときに、その概要をとりあえずここに書き出していただいて、詳しいことについては、事務局と相談しながら埋めていくというスタイルにしていったほうがいいと思うがいかがか。

【磯田会長】

ただいまの増田委員の発言に対し、意見はあるか。

確かに、この提案書をしっかり記入して出すというのは、自由な議論の導入としてはハードルが高いと思う。

事務局に手伝ってもらいながら提案書等の書類を整理して、自主的審議事項として地域協議会に提案していくというプロセスになるかと思うが、これでよいか。

**【田中美佳副会長】**

最初から書類を書いてこういうことをしたいと提案するのは難しいと思うので、増田委員、磯田会長の意見に賛成である。

**【磯田会長】**

ほかに意見はあるか。

**【青山委員】**

町内会からは今のところ希望などは上がってきてはいないが、私は今年初めて委員になり、自分なりに思うところがあるので、事務局へ提案の相談に伺ってもよいか。

**【磯田会長】**

どんどんしていただいて構わない。

次の会議あたりで、もう少しフランクに皆さんが直江津区でやりたいと思うことや、課題だと考えることを、一人ずつご意見をいただくようにしたいと思っている。そのときに発言していただいてもよいし、事前に事務局に話していただいてもいいと思う。

**【青山委員】**

私は商売をやっていて、商業関係の長年温めていた構想があるので、そういうことを受け止めていただけるのか事務局にお伺いしたい。これはこの会にはなじまないと言われれば止めようと思う。提案してもよいということであれば、提案させていただきたいと思っている。

**【磯田会長】**

今の段階で提案の可否を判断することはないので、いろいろな意見を出していただいて、まずは協議会の中で議論していくことが重要かと思う。協議会の中で商業的な部分の議論は今までされてこなかったもので、そういう視点も非常に重要だと思う。

**【青山委員】**

私は商工会議所会員なので、商工会議所からもいろいろと提案をいただいたり、交通安全協会の副会長もやっているのですが、交通安全協会が希望している事案もある。そういうことを提案することもできるか。

**【磯田会長】**

内容によっては提案できるかもしれないが、まずは、青山委員の思いを事務局へ上げ

ていただきたい。

皆さんも、自分の思うことは臆することなくどんどん提案してほしい。

ほかにあるか。

#### 【増田委員】

補足だが、この提案様式は会長宛なので、事務局が自主的審議事項とするかを判断するわけではない。皆さんは、まちづくりに対する熱い思いをお持ちだと思うので、その思いを出した中で、考え方や整理の仕方、やり方を皆さんと話し合っ方向付けをしていけばよいと思う。

この様式の内容のところに、「下記を参考に可能な範囲でご記入ください。」と書いてある。書けるところだけ書いて、趣旨を皆さんにわかっていただくということである。皆で課題や問題点を出し合いませんかという様式なので、そのようにご理解いただきたい。

#### 【磯田会長】

次の項目に移る。

今期の協議会における、自主的審議の進め方について検討していきたい。第4期から継続審議になっている二つの自主的審議事項について、まず、「地域ぐるみの防災活動の推進について」事務局へ説明を求める。

#### 【石崎係長】

- ・資料No.3 「令和6年度地域独自の予算を活用したい取組の概要」

資料No.3-1 「令和6年度地域独自の予算について」に基づき説明

#### 【磯田会長】

昨年度、防災士会との意見交換に関わっておられた古澤副会長から補足等はあるか。

#### 【古澤副会長】

昨年、防災士会、直江津地区町内会長協議会の方からいろいろな意見をいただいた。資料にも書いてあるように、防災士会では避難所運営ゲーム「HUG」や「AED講習会」等、いろいろな研修をやっているが、予算がつかない。今、予算は36町内会から1,000円ずつ、3万6,000円をいただいた中での活動しており、財政的に非常に厳しい。ほとんどが総会の通信費で終わっている状況である。

私は、上越市防災士会の立ち上げ、あるいは、直江津地区町内会長協議会の会長の立場から、1月1日の大震災の前から、災害に対する危機意識を持ったほうがいいのでは

ないかと考え、いろいろな活動を提案していたが、予算がないという状況である。

防災士会は、前へ前へと行動している。例えば、避難経路や避難の仕方、AEDの設置場所の一覧表作成など、案をいろいろなところを出していただいているが、予算がないので、地域協議会で応援しながら、市に提案していくということを皆さんからご理解願えればと思っている。

直江津については、市の防災部門で町内会長等を集め、ずいぶんと会議を行っている。今、最終的な段階で、避難経路の見直しについて町内会や民生委員、防災士会と意識統一ができています。

ただそれは計画の話であって、防災士会は本当にきめ細かく活動しているので、例えば、よく避難所まであと何メートルという標識があると思うが、あれをもっと鮮明にしてくださいような取組に予算が付くよう、皆さんにご協力をお願いしたいと思っている。

**【磯田会長】**

地域ぐるみの防災計画について、意見等はあるか。

**【関澤委員】**

今、説明をお聞きしたが、これは直江津地区だけの問題なのか。私たち、五智の人間としては、仲間外れにされているような気がする。その辺はどういうお考えをお持ちか。

**【磯田会長】**

これは令和6年度に地域協議会の発案で、地域の防災士会や町内会の皆さんと連携して、こういう事業をやってはどうかと、市が実施する事業として作成した提案書である。

我々の頭の中では、五智も含めて直江津区と考えているので、提案書に特段五智の表記はないが、五智も含めている。

自主的審議で考えた事業の予算をどう確保していくかについて、地域独自の予算事業を活用しようと考え、市が実施する事業として提案したところだが、資料3-1の四角の枠中に書いてある回答であった。我々としては、市の受け止め方は、いささかおかしいのではないかとこの気持ちもあったが、より議論をしていき、今年度の提案に結びつけるのか、あるいは市の施策の中で、それに代わる動きが出てくるのか、その辺を見定めていくということで、自主的審議に残している。

市は現在、各町内会と議論をしている状況だと私は認識している。

意見のある方は、ご発言いただきたい。

**【関谷委員】**

資料No.3-1「関係課の所見」の部分の下の方に、「なお、津波避難誘導表示板の設置につきまして」のあたりは、昨年、防災士会や町内会と意見交換を行ったときに、表示板はたくさんつけた方がいいのではないかとの話になり、事業を提案したかと思う。その後、能登半島地震があったが、市はこの回答をもう少し進んだ形で考え直すということはないのか。

**【古澤副会長】**

3月26日に直江津区内の町内会と市で意見交換会を行った。その際に21項目の課題等が出たが、後日回答することとなった。

**【関谷委員】**

津波の被害が多い地域、新潟県内では出雲崎など、すぐ後ろに山があるような地域に行ってみると、電柱のいたるところに海拔や避難場所はどこか、どこに逃げるのかといった表示がたくさんある。直江津を「観光のまち」としていくのであれば、外から来られた方も、すぐにどこを見てもわかるように、そういった看板等を設置することを強く求めていったほうがいいのではないかと思う。

**【磯田会長】**

今のお話にもあるように、非常に喫緊の課題であり、市でも、町内会等との意見交換を行って検討しているようだが、地域協議会には話がないので、町内会長しか知らない状況である。昨年度協議会が提案したことに対して、どう考え、どう反映していくのか、きちんと市の担当部局と議論しないといけない問題だと思う。

その中で、直江津区の自主的審議事項として、この項目を残すか、残さないか。残していくとすると、どういうことをやっていくのかということ、少し議論していただきたいと思う。

まず、この自主的審議事項をこのまま継続して、より深く議論していくべきかという観点からご意見をいただきたい。

**【青山委員】**

任期は4年なので、4年間できちんとした成果の上がるような議題を取り上げていただきたい。また、退任するときには、我々の成果がきちんと出るように、会長、副会長の方から先導していただきたいと思う。

**【磯田会長】**

何らかの成果、あるいは議論したことが、少しでも市政に届いたり、地域の改善につ

ながったりすれば、地域協議会に参加している皆さんのやりがいにもつながると思うので、そのような方向で進めていきたいと思う。

#### 【保坂委員】

資料No.3-1「関係課の所見」の下線部分、「市が主導して全市的に促すものではなく、地域住民の発意によって運営されるべきものであるため、市実施事業としては適当でない」とある。独自事業なのに、全市的にというのは矛盾しているように感じる。

#### 【磯田会長】

市からは書面で回答を頂いたのみで、担当部局とは直接話をしていない。この回答も我々からすると、そんなことは提案書に書いてないのに、なぜそんな回答をするのかと言いたい。

モデルとしてまず直江津区でやり、それが全市的に広がっていけばなおいいぐらいの提案を書いているが、全市でやるようにとは言っていないにもかかわらず、こういう回答だった。

今おっしゃったことは、今年、正式に自主的審議になったときに、市とどういう話をしていくのかということに結びついていく話ではないかと思う。

#### 【古澤副会長】

6月1日に、上越市防災士会直江津支部の総会があった。そのときに出席した市の方は、「上越市地域防災計画では、自分たちの地域は自分たちで守るという自助、共助の意識を持ち、自主防災活動に積極的に参加することなどが市民の役割として記載されているため、今後も地域の皆さんの協力をお願いします。」と話されていた。私は、このことを市民が本当に理解されているのか疑問に感じた。そのようなこともあり、行政と地域協議会、町内会長協議会、防災士会がどう受け止めていけばいいのか、自主的審議事項の中から見出していったほうがいいのではないかと思う。

#### 【増田委員】

会長がおっしゃるとおり「全市的に」というのは、その当時の委員全員がおかしいと思ったところである。

もう一つおかしいところは、最後の行に、「設置個所の増設などがありましたら、検討いたしますので町内会を通じてご要望ください。」とある。本来はそのような受け身ではなく、「皆さんのところで、どこが必要だと思いますか。」と聞かなければいけない。そのところの姿勢が、私たちは違っていると思った。

ぜひ自主的審議事項に取り上げていただいて、みんなで取り組んでいきたいと思う。

**【磯田会長】**

ではここで、挙手にて決を採りたいと思う。令和6年度も継続して審議事項とすることに賛成の方は挙手を願う。

(挙手多数)

継続審議させていただくこととする。

先ほど申し上げたように、今、市の担当課が直江津区内で防災について町内会長等と見直しの検討を進めているようだが、地域協議会には何一つ情報が入ってきていない。能登半島地震があったからやっているのだろうが、どのような趣旨で、どのように生かしていくのか、今後どのように防災組織を運営していくのか等、市の担当課に来ていただいて、説明を聞くということが必要なのではないかと考えている。

次回か、その次の協議会になるかわからないが、市の動きや考えをお聞きするという事で、担当課を呼びたいと思っている。その件について、ご意見をいただきたい。

**【増田委員】**

地震はいつ来るかわからない。1年後にくるとか、2年後にくるとか、そんな生ぬるいことを言っていて、その間にきたら、直江津の皆さんはみんな犠牲になってしまう。そんな悠長なことをやっている暇はないので、市の取組をまず聞く。聞いた中でどこが問題かを私たちが考えて、言うべきことは市に申し入れをするというように進んでいきたいと思う。私は、まず市の担当課から来てもらい、今どのようになっているのか聞くことに大賛成である。

**【磯田会長】**

ほかに意見はあるか。

**【保坂委員】**

私も会長の意見に賛成である。我々も協議をするにあたっては、市の考えをきちんと聞いて、それをベースに、どこが問題なのかをきちんと考えたほうがいいと思う。

**【磯田会長】**

次回、もしくはその次に担当課から来てもらい、市の取組について、考え方や、どのようなタイムスケジュールで、どのようなことをしていくのか等、話を聞くということではどうか。

(委員同意)



では、事務局は、担当課に連絡をしていただきたい。

次に、直江津まちづくり構想について。こちらは、前回の協議会で配付した「直江津のグランドデザインを描く事業」との関係があるので、私から少しお話をさせていただきたい。

参考資料に、地域活性化の方向性として、特に直江津区で重視していくことが、キャッチフレーズと構成要素として書かれている。これは、前期の協議会のメンバーで、今後直江津の自主的審議をしていく上で、何を最重要視していけばいいのか議論して作ったものである。キャッチフレーズは、以前から直江津の上位計画の中で語られているキャッチフレーズをそのまま使っている。構成要素は、上越市の最上位計画、第7次総合計画の基本目標の後ろに「直江津」という言葉を入れたものである。

第7次総合計画を整理して直江津のやることを考えるというものが、前期の直江津区地域協議会の提案である。ここから、直江津区の課題や取り組むべき事業を整理したものが、「直江津のグランドデザインを描く事業」の実績報告に記されている。記されている事業のすべてが直江津区のまちづくり構想だと認識していただければいいと思うし、その中でいくつかの事業が動いているとご理解いただきたい。

「直江津のグランドデザインを描く事業」というのは、直江津区地域協議会で検討した課題について、市民参加のワークショップ等を通じて解決方策等を検討・まとめていく事業で、直江津プライド2021が直江津区地域協議会と連携して地域独自の予算事業として提案した事業である。

「直江津のグランドデザインを描く事業」は昨年度で一応終了している。直江津区地域協議会に提言書を提出し、上越市にも渡している状況だが、市がどのように考えて今後まちづくりを進めていくか等については、まだ明確にわからないところもあるし、特に観光施策については、通年観光計画の中で既に動いている部分があるので、そこにどれだけ我々の意見や考えが反映できるのかというようなことも、我々の役目だと考えてやってきた。

この「直江津まちづくり構想について」の自主的審議事項を継続していくのかご意見をいただきたい。

#### 【田中実委員】

今ほど、「直江津のグランドデザインを描く事業」についての説明をいただいたが、4点質問をさせてもらいたい。

一点目は、これは事業報告なのか、提言書なのか、タイトルが曖昧である。これをまた提言書として作成しなおして担当課に提出するのか。

二点目は、直江津区地域協議会は直江津プライド2021に参画している団体ではない。文章では、あまりにも協議会の名称を連呼している。直江津プライド2021の事業であるのに協議会の名称を使いすぎではないか。

三点目は、文章の中で「当会代表は」と記載しており、他人が作成したように記載されているが、代表本人が作成しているのではないか。

四点目は、文章では「上越観光コンベンション協会ではきめ細かな企画運営などではできない」と記載しているが、コンベンション協会はできないと言ったのか。

以上、ここまでまとめられたのであれば、他人に提言せずに、直江津プライド2021が自身で事業を実施されたほうが早いのではないかと考える。

#### 【磯田会長】

まず、今回の協議会は、直江津プライド2021が出したグランドデザインの是非等を議論する場ではないということをご理解いただきたい。

田中実委員から四つ質問があったが、今日は皆さんに議論していただくことが山積みなので、後で回答させていただくか、個別に話をさせていただいてもよい。

地域協議会と、地域の団体が連携してやることについて疑義がある、おかしいのではないかというようなお話だが、そもそも地域独自の予算事業の立て付けとして、地域協議会で議論していることを、地域の団体にやらしてもらわなければ、この地域独自の予算事業の形は取り得ない話である。自分たちの町がどうしたらよくなるかということを念頭に置いて、活動できる団体がそれを担っていくというのが、この地域独自の予算事業の主旨であって、それを実現するために、どういうふうに連携していけばいいのかというのを検討したのが今回の事業である。事業の是非は、提言書を出した市がどのように受け止めるかなので、そこは、受け止める側にゆだねるしかない。

この文章は、私が私の責任で書いているので、質問等あれば私に聞いていただければと思うが、今ここで長時間お話することは避けたいと思う。田中実委員それでよいか。

#### 【田中実委員】

ここですぐはなかなか難しいだろうが、必ず議事録に残るようにしてほしい。

#### 【磯田会長】

どういう形で議事録に残るかはわからないが、書面でお答えする形でよいか。そして、

田中実委員から出た質問に対して、どのような回答をするか、私の方で作成して各委員にも配布するということでよいか。

**【田中実委員】**

皆さんに配るのではなく、私が望むのは、この全員の前で、四つの質問について本来は答えていただきたい。ただ、時間がないということなので、やむを得ないと思ったが、必ず議事録に残るようにしてほしい。

**【古澤副会長】**

皆さん、今の質問等はわかるか。

(わからないの声)

難しいものを議論しても、なおさらわからないと思う。書面を出して説明していただいたほうが、わかりやすいのではないかと思うが、皆さんいかがか。

今の質問を聞いても皆さんが理解できていない部分があるのではないかと思うので、まとめてもらってもよいか。実際、皆さん、わからないといった顔をしておられる。

**【田中実委員】**

この文章では、地域協議会が連呼されている。我々は、直江津プライドの参画企業ではない。今申し上げた4点に関しては、必ず議事録に残るように、文書で提出されるのであれば提出してほしい。そういうふうに、私はお願いしている。

**【保坂委員】**

今ほどの話を聞いていたが、全然意味がわからない。前期から継続されている委員は、わかるかもしれないが、私たちは委員になったばかりで、何をおっしゃっていて、何をおっしゃりたいのかがよくわからない。それを説明していただかない限りは、上のほうでキャッチボールをしているだけなので、わかりやすい質問をしていただきたいと思う。よろしければ、書面に書いていただいて、書面で回答していただければわかりやすいのではないかと思うが、いかがか。

**【磯田会長】**

保坂委員からご意見いただいたような形で対応したいと思うが、いかがか。

(異議なし)

先ほどの話は、前期の会議で、地域協議会と地域団体が、どのように連携していくかという議論の中で進めてきた話である。地域協議会が連呼されているとおっしゃっているが、前期の委員からも、前期の会議がどうだったのか、直江津まちづくり構想が、前

期の会議でどういうふうに承認されていたか、前期から委員として参加してきた皆様の意見も、後日いただきたいと思う。

今の議論は、ここで閉めさせていただく。

それでは、二つ目の自主的審議事項「直江津まちづくり構想について」も、令和6年度継続して審議を行いたいと思う。

賛同いただける方は、挙手を願う。

(挙手多数)

引き続き、自主的審議事項として議論していきたいと思う。

先ほど少しお話したが、次回以降、前期から引き継いだ自主的審議事項の深掘りや、引き継いだ事項以外の、地域課題の解決に向けた新たな委員の皆様の思い等をお話いただきたいと思っている。次回の会議の主な議題として、まず皆様の思いや考えを表明していただく。そして、地域ぐるみの防災計画について、担当課の都合がつくようであれば、次回以降の会議に来ていただいて意見を聞くということで、進めていきたいと思うがよいか。

#### 【古澤副会長】

昨年、通年観光計画について魅力創造課から説明を受けた。直江津での計画の概略を伺ったが、具体的に何をやるのかはまだ周知されていない状況と思う。

前回説明をいただいた際に、市民に寄り添った計画、若い人からお年寄りまで、幅広く参加できるようなものにしていただきたいという旨の要望をした。皆様方も直江津に住んでおられて、直江津の活性化のために重要な事案でないかと思っている。もう始まるので、その辺の丁寧な説明や前回の説明より進歩したものを聞きたいと思う。

#### 【磯田会長】

通年観光計画について、以前担当課から来ていただいて説明を受けたが、そこからどうなったか、進捗状況や具体的な部分の話を知りたいという旨の話があった。

これについて、意見はあるか。

#### 【田中美佳副会長】

来ていただいて、いろいろと意見を聞かせていただきたいと思う。

#### 【磯田会長】

ほかに意見はあるか。

#### 【保坂委員】

通年観光という言葉が独り歩きしているようで、中身は全然わからない。何をするのか、どういうことをするのか、お金は何億もかけると聞いているが、なぜそこまでかけるのか等、市民に全然降りてきていないような気がする。やはり、ここで説明を聞かないとわからないと思う。

**【磯田会長】**

今ほど3人の方から、通年観光計画について、現状どうなっているのか、今後どのようにしていくのか等、担当課に来ていただいてお聞きする機会を設けたほうがいいのではないかという意見があった。

その方向で考えてよいか。

(委員同意)

事務局から魅力創造課に打診していただいて、調整をお願いしたい。

次に【報告事項】地域自治推進プロジェクトの検討状況及び地域独自の予算事業の経過措置の取扱いについて、事務局へ説明を求める。

**【石崎係長】**

・別紙1「地域自治推進プロジェクトの概要」

別紙2(案)「地域自治の理想的な姿及び取組の方向性(全体図)に基づき説明

**【磯田会長】**

今ほどの説明に対し、質問等はあるか。

非常に多岐にわたる資料で、これを一つ一つ理解していくことは大変であるし、これをこの場で議論しても、腑に落ちていないものについて議論するのは難しいと思う。

無理をせず、肩の力を抜いて、わからないことはざっくばらんに聞いていただいたり、正式な場でなくても、皆さんと意見交換していきながら、考えを膨らませるような会議運営をしていきたいと思っている。

**【増田委員】**

今後、地域協議会委員にアンケート調査を実施するとあるが、前から委員をやっている人でも、資料を見てもよくわからない内容で、よく理解しない中でアンケート調査をやるのは非常に乱暴なやり方である。

理解が不十分ななかでアンケートをして、そのアンケートの結果をもとに、そのまま進むようなことになってはまずいので、十分理解した上でアンケートに答えるという手順をしっかり踏んでほしいと担当課に要望していただきたい。

【磯田会長】

今の増田委員のお話は、このペーパーを配っただけでは駄目という話である。今、事務局から、十分丁寧な説明をいただいたが、それを理解するには、もう少し時間とより詳しい説明があつてしかるべきではないかというご意見だと思う。これについて、どのような対応がとれるか、事務局と検討したいと思う。

事務局、意見はあるか。

【佐藤所長】

今ほどのご意見については、担当課へ伝えたいと思う。

【磯田会長】

本日の議題は、以上で終了となる。

- ・次回協議会：8月20日（火）午後6時30分から
- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。